

**研究主題**

学習の中でのコンピュータの活用

～小学校6年間を見通した情報教育の指導計画の作成～

**研究の目的**

学校において、子どもに生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その上で、学校の現状や子どもの特性を理解し、学校の創意工夫を生かし、全体として調和のとれた具体的な指導計画を作成する必要がある。子どもたちがコンピュータに接する時間をもっと多くすることを図るとともに、情報活用能力を付けていくためには、指導計画はなくてはならないものであると考える。

**研究の概要**

文部科学省のホームページには「教員のコンピュータ活用等の実態」調査結果が掲載されている。「コンピュータを使って教科指導等ができる教員数」は66.3%（小学校教諭等）という数値が挙げられているが、自校を振り返ってみるとこれほど高い数値にはならない。

若葉台小学校では、市からの整備により環境面は整い、教員は「コンピュータ室を使ってしてみたい学習」を数多く持っている。しかし、いつ何をどうすればよいかわからないし、準備する時間がないというのが現状である。機器の操作技術はもちろん必要だが、使い方を理解した上で、導入される子ども用の統合ソフトや、学校にある機器を活用した年間指導計画があれば、情報教育推進の一助になるのではないかと考え、この研究に取り組んだ。

情報活用能力の育成を考えると、教科は国語・社会・生活の3教科に絞られる。他教科でもコンピュータは活用でき、総合的な学習でも情報活用能力の育成はできるが、今回は3教科について考えた。

**生活科2年**



学年	単元名	目標と内容	情報教育のポイント	使用ソフト・機器	学習の進め方・ソフトの使い方
2	おしえて あげるよ	2年生になったことを喜び、自覚をもつ。			
2	つうがくろで 見つけよう	通学路を歩きながら、春の自然を見つけたり、くらしの様子を見たり調べたりすることができる。			
2	町のひみつを おしえあおう	住んでいる町に目を向け、自分が知っている町の秘密を友達に教えることができる。	収集・判断・表現	はっぴょう名人 デジタルカメラ プロジェクタ	デジタルカメラで撮影した画像に文字で説明を加えたカードを作り、プロジェクタで映す。(プリントアウトして掲示も)
2	町を たんけんしよう	町の自然やいろいろな施設、町の大のの様子に関心をもち、友達と協力して町探検をすることによって、地域の自然やもの新しいかわりを広げることができる。	収集・判断・表現	はっぴょう名人 デジタルカメラ	同上。グループで作業し、スライドにすることもできる。
2	わたしの町をしようかいしよう	町探検で見つけたことや気づいたことを多様な形で表現し、友達と交流しながら自分の町や人々に愛着をもつ。	表現		
2	やさいを そだてよう	春まきの野菜の中から、自分たちで育てたい野菜を選び、育て方を調べて種まきや苗植えをする。			
2	生きものを さがしに いこう	身近にある野原や小川などに行き、小動物を見つけて探検することができる。	収集・判断	はっぴょう名人 デジタルカメラ	見つけた小動物について、画像を入れたカードを作る。
2	生きものランドを つくろう	育てる中で気づいたことなどを「生き物ランド」を作って紹介することができる。			
2	むかしのあそびを しよう	地域のお年寄りや昔のあそびをして交流し、お年寄りのすばらしさに触れることができる。			

年間指導計画とともに作成したテンプレートと作品例を挙げておく。

使っているソフトは学校に導入された統合ソフトジャストスマイル2である。

### テンプレート 生活科 2年

(はっぴょう名人)

### 作品の例 生活科 2年

### 子どもに身につく力

- 友だちや身近な人に知らせたいことを集める、聞く
- 最も自分が知らせたいことを決める
- 話す、文に書く、絵を描く
- 聞き手を意識して話したり、読み手を意識して書いたりする

↓

- 必要な情報を主体的に収集〈収集〉
- 収集した情報を主体的に判断〈判断〉
- 判断した情報を主体的に表現〈表現〉
- 受け手の状況などを踏まえて伝達〈伝達〉

### 小学校段階でつけたい情報スキル

	国語	社会	生活	学活・ゆとり
1年	・マウス操作 ・スタンプ ・印刷		・デジタルカメラ ・スライド作成	・電源の入れ方・切り方 ・ソフトの立ち上げ・終了 ・ペイント
2年	・画像の取り込み ・文字パレット ・漢字変換		・プロジェクト	・キーボードゲーム
3年	・ワープロソフト ・プレゼンテーション	・カード ・拡大コピー機		
4年	・ローマ字入力 ・スキャナ ・表計算ソフト	・Web上の資料活用 (交流)		
5年	・インターネットで検索	・メール ・インターネットで検索		
6年			・デジタルビデオカメラ	

## 社会 5年 (参考となる Web ページを入れた改訂版)

学年	単元名	目標と内容	情報教育の目標	使用ソフト・機器	学習の進め方・ソフトの使い方
					<a href="http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/shousha/s-top.html">http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/shousha/s-top.html</a>
					<a href="http://www.osaka-shoseki.co.jp/link/index_03.html">http://www.osaka-shoseki.co.jp/link/index_03.html</a>
5	どきどきわくわくたんけん日本列島				
5	わたしたちの生活と食料生産 ・導入				
5	・米づくりのさかんな庄内平野	庄内平野で米づくりに取り組む人々の工夫や努力、消費地までの運輸の働きなどを理解し、米の生産が私たちの生活を支えていることに関心をもち、その意味を考える。庄内平野の米づくりに関して、地図や統計資料などを活用して、土地利用の特色、稲作に従事している人々の工夫や努力などを調べ、わかったことを自分なりの言葉で表現する。	適切に扱う	はっぴょう名人なるほどねっと デジタルカメラ	米作りについて調べたことをまとめる。稲の生長の様子と1年間の米づくりの様子を、画像を入れたカード式にまとめる。(1年の流れ) 米についてインターネットで調べる。
		参考となるWebページ			<a href="http://kids.goo.ne.jp/cgi-bin/kframe.cgi?BL=0&amp;SY=2&amp;MD=2&amp;FM=0&amp;TP=http://www.maff.go.jp/kyoshitsu/index.html">http://kids.goo.ne.jp/cgi-bin/kframe.cgi?BL=0&amp;SY=2&amp;MD=2&amp;FM=0&amp;TP=http://www.maff.go.jp/kyoshitsu/index.html</a>
		参考となるWebページ			<a href="http://kids.goo.ne.jp/cgi-bin/kframe.cgi?BL=0&amp;SY=2&amp;MD=2&amp;FM=0&amp;TP=http://www.ic-net.or.jp/home/gorobe/rice/index.html">http://kids.goo.ne.jp/cgi-bin/kframe.cgi?BL=0&amp;SY=2&amp;MD=2&amp;FM=0&amp;TP=http://www.ic-net.or.jp/home/gorobe/rice/index.html</a>
5	・水産業のさかんな八戸市	わが国は昔から水産業がさかんであるが、自然条件や社会条件の変化に伴い、水産業の保護・育成が重要になってきていることを、八戸市の水産業で働く人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きの事例を通して具体的にとらえる。写真、地図、グラフなどの資料を互いに関連づけて、水産業のかかえる問題や人々の努力や工夫を読み取り、発表したり、話し合いを通して自分の考えを深める。	適切に扱う	はっぴょう名人なるほどねっと	水産業について調べたことをまとめる。水産業についてインターネットで調べる。必要に応じてメールを送る。
		参考となるWebページ			<a href="http://www.gyoren.or.jp/">http://www.gyoren.or.jp/</a>

## 研究のまとめ

教師自身が情報活用能力を身につけなければならない。情報手段を適切に活用することはもちろん、そのほかに「情報手段の特性」や「積極的に情報社会に参加しようとする態度」が必要である。小学校段階の子どもたちにも普段情報機器を使わせ、発達段階に応じた適切な指導を行うことが、必要だと考える。コンピュータを使うことだけが情報教育ではない。学習活動の中に便利な道具の一つとしてうまく取り入れることが大切である。教師自身も子どもたちも、情報の優れた使い手になって欲しいと考えている。

小学校段階では直接体験や実体験をすることが重要な意味をもっている。これらのことをおろそかにするわけにはいかない。コンピュータはあくまで道具の1つであり、大切なのは人と人との繋がりである。自分の力で周りの人にインタビューしたり、実際に戸外に出かけて観察したりすることがまず第1である。そのことをしっかりと認識した上で指導に当たらなければならない。